

# 令和7年度 第2回 福岡市環境審議会 議事要旨

1 日時 令和7年11月18日(火) 10:00~11:30

2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホール A

3 出席者(五十音順、敬称略)

氏名	役職等
阿部 真之助	市議会議員
今林 ひであき	市議会議員
大石 修二	市議会議員
包清 博之	九州大学 名誉教授
菊水 之恵	日本野鳥の会 福岡支部 幹事
小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
勢一 智子	西南学院大学 法学部 教授
平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
西下 尚樹	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 次長
萩島 理	九州大学 副学長・総合理工学研究院 教授
林 灯	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授
久留 百合子	リエゾンオフィス代表/消費生活アドバイザー
松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
馬奈木 俊介	九州大学大学院 工学研究院 教授
森 あやこ	市議会議員
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
山田 ゆみこ	市議会議員

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 循環型社会構築部会の報告
- (3) 脱炭素社会推進部会の報告
- (4) 環境保全・創造部会の報告
- (5) 閉会

## 5 議事要旨

### (1) 開会

環境局長あいさつ

#### 【事務局】

資料 1 について説明

### (2) 循環型社会構築部会の報告

#### 【委員】

資料 2-1 を基に概要報告

#### 【事務局】

資料 2-2 について説明

#### 【委員】

令和 9 年 2 月から始まるプラスチックの分別について、周りの人に聞いてもほとんど知らない状況である。まだ 1 年ちょっとあるが、今後市民にどうやって周知していくのか、スケジュールを教えてください。計画的にやっていかないと市民には伝わらないと思う。

#### 【事務局】

現在、分別のルールを整理しているところであり、それを踏まえ、来年以降住民説明会や市の特設ホームページを作るなどして、しっかり市民に広報していきたいと考えている。

#### 【事務局】

補足すると、プラスチックの分別は令和 9 年 2 月から始まるため、1 年前となる令和 8 年 2 月から住民説明会の募集を開始し、説明会を希望する団体等に対し新年度から説明会を実施する。また、1 年前、あるいはそれより少し早まるかもしれないが、特設ホームページを作り、ニュースが流れ始めたときに住民の皆様がすぐに見ることができるようにしたいと思っている。現在、1 校区でプレ実施しており、今年度中にさらに 1 校区で実施する予定で、来年度も実施していく。今、企業と連携して分別区分が判断できるサービスを作り、お試しでプレ実施中の校区の皆様に使っていただいている。このような取組みを事業開始の 1 年前を契機にしっかり皆様に周知していきたいと考えている。

#### 【会長】

国の法施行に合わせて対応が大きく変わり、市民の皆様に馴染みのない分別をお願いすることになるので、早めの周知が重要で、大事なお指摘だったと思う。周知の際には分別収集が資源リサイクルに資する、CO<sub>2</sub>削減やプラスチック問題の解決につながるなど、意義や効果と一緒に発信すると市民の皆様の協力も得られやすいと思う。

#### 【委員】

海洋プラスチックごみ対策についてやる気を出していただきたい。無関心層も楽しみながら取り組めるワークショップや清掃イベントの開催との記載があるが、意識を高めるための工夫など具体的なものを教えていただきたい。

#### 【事務局】

海洋プラスチックの無関心層に届くような取組みとして、今年度は10月に開催した環境フェスティバルのブースにおいてマイクロプラスチックの周知啓発を行ったほか、来週末には糸島市と共働して海岸で清掃活動を行いながら、海洋ごみについて学べるワークショップの開催を予定している。そのほか、3Rステーションにおいても機会を捉えてワークショップやイベントを開催していきたい。

### (3) 脱炭素社会推進部会の報告

#### 【委員】

資料 3-1 について説明

#### 【事務局】

資料 3-2 について説明

#### 【委員】

グラフの吸収・削減貢献はどのくらいのタイムラグがあつてこの数値が出てくるのか見通しを教えていただきたい。

#### 【事務局】

例えば、再エネの導入や森林吸収等については最新値が2023年度と早い段階で削減貢献量の推定値が出るものもあるが、ご指摘の通り一部の取組みについてはタイムラグがあり、福岡方式に係る海外貢献量については、施工面積やごみの投入量、気候条件等に伴い、推定値を出すには時間を要するものと考えている。

**【委員】**

国の温室効果ガス排出削減目標に、市独自の取組みによるプラスアルファでの目標値設定や、ペロブスカイト太陽電池導入の取組みなどの先進的な技術にチャレンジする良い計画案となっていると思う。事務局にお願いしたいのは、技術革新などの不確実性を含む計画であり、最後の6章にあるPDCAによる進捗管理を常に意識し、それに合わせて計画の見直しや取組みの変更を柔軟に検討いただきたい。

**【事務局】**

新技術の進展は日進月歩で、かつ、不確実性が高いものと認識している。国の協議会等最新の知見などを把握しながら取組みの具体化や見直しを行っていききたい。

**【会長】**

新技術の進捗は国でも予測困難で不確実性が高い部分であるので、しっかりPDCAを回していくことが大事である。

**【委員】**

吸収・削減貢献について、ここで言う森林吸収は、山林地域のことだと思っている。一方で、面積比で言うとはるかに小さく貢献量は大きくはないと思うが、市街地における緑化をどの程度見込むのか。そういったものを積極的に上げていくことについての可能性をお伺いしたい。これは生物多様性の面でもコベネフィットになり、市民に対してもわかりやすく伝わるものになると思う。

**【事務局】**

森林吸収量について、骨子案に記載の8.4万トンの吸収量の中には、市内の森林や都市部における緑化も含まれている。ご指摘のとおり、都市部における緑化はこのうちで150トンほどと、量としては少ないが、都市部の緑化を進めて行くということから、そうした内訳の記載も含めて原案や成案に向けて検討を進めていききたい。

**【委員】**

量としては少ないが、質的な効果もある。最近もアクロス福岡の緑化がテレビ番組で取り上げられ、注目されていることもあり、例えば、他にもアプローチの仕方として、緑化が指針等によって定められるものもあるが、福岡市においてはさらに上積みを経済的観点から依頼していくようなやり方などを総合的に検討いただきたい。

**【事務局】**

市有施設の跡地活用として、公募条件等において都市計画で定める緑化率を上回る形を

提案の最低基準としている事例も多い。そうした仕組みづくりのなかで都市の緑化を誘導していきたい。

#### 【会長】

都市緑化法が改正されるなど、都市のみどりが脱炭素や生物多様性との関連において非常に重要であるという認識が法制度にも組み込まれているので、福岡市でも住宅都市みどり局で策定している「福岡のみどりの基本計画」と連携・協調して進めていくことも、今のご指摘に応えるものなので、ぜひ検討いただきたい。

#### 【委員】

今、住宅地が3、4軒に分割されて購入されている。3、4軒となると、駐車場などを作った場合、庭の緑がほとんどなくなり、コンクリートで埋め尽くされた状態となる。こういうケースが増えていると思うが、計画に勘案されているのかお聞きしたい。

#### 【事務局】

精緻な把握は困難であり、都市計画に基づく緑化率等による推計を行っていると考えている。

#### 【委員】

先ほど話しがあつた「不確実性」の中にこれは含まれており、田畑がマンションに変わる、一軒家だったところが何軒も合併して、大きなマンションが建ち、緑が少なくなるということなどは今後の社会の中でたくさん起こる。また、雨水が土地の中に浸透できる面積を増やしていかないと、水の循環としても、CO<sub>2</sub>だけではない気候危機の影響が局所的に表れることも勘案することが必要だと思う。都心の森1万本プロジェクトにおいて、苗木をしていただくような市民向けの取組みもあるので、そういったものも活用して緑を市民が増やせるという形を作っていただきたい。あとは、農林水産局との連携でグリーンインフラをもっと活用していただきたい。それから、CO<sub>2</sub>を吸収するコンクリートが出ているが、宇宙開発の中でCO<sub>2</sub>を光触媒を用いて軽油や重油を生成するものがあり、まだ研究を進めていかないといけないが、ぜひ福岡市でもそういった実証を率先して行っていただきたい。

#### 【事務局】

1点目の住宅地における緑へのご意見について、福岡市はマンション率が政令市一高いという特性がある。マンションやビル、建築物を建てる時に緑化率が高ければ総合設計制度という形で容積率の緩和もある。また、都心の森1万本プロジェクト等により都市の緑化を誘導できればと考えている。最後のご指摘の光触媒の活用については、人工光合成という分野の一つであると思っており、九州大学では光触媒を活用してアンモニアと水素を生成

できるといった実証実験が行われており、国の協議会でも紹介されているような先端技術もある。こういった先端技術の実用に向けた支援にも力を入れていきたい。

【委員】

まだ研究が必要だが、軽油や重油も生成でき、実証実験まで進めるような状況になっているので、ぜひお願いしたい。

【委員】

資料を見ただけでの全体的なコメントだが、EV バイクレンタルなどの取組みは、経営として厳しいバス、鉄道では対応できない移動手段を補完している。脱炭素のみの話ではなく、住みやすさ、街づくりに関係する。今は、福岡市環境基本計画の中で少し記載があるただけだが、こういう取組みを、移動なので道路系として別で考えるのではなく、環境マターとして考えると良いと思う。また、ペロブスカイト太陽電池など個々の取組みはよいが、将来予測として CO<sub>2</sub>がどうなるのかを検討していく必要があり、違法廃棄の問題なども考慮すると、循環型と脱炭素が繋がると思う。

【事務局】

自動車部門は福岡市において主要な排出部門であり、これに係る EV や FCV の進展には、まずはインフラ整備を早い段階で行ったうえで普及を目指すところが大切だと考えている。ご指摘いただいた観点を踏まえ、原案や成案に向けて織り込むような形で検討できればと考えている。

#### (4) 環境保全・創造部会の報告

【委員】

資料 4-1 を基に概要報告

【事務局】

資料 4-2 (生物多様性ふくおか戦略 骨子案) について説明

【委員】

4 ページのふくおかの自然の恵みの活用の目標が「環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合」として、目標値が 94.7% と高い数値を挙げているが、3 ページの生物多様性の重要性の社会への浸透の目標値は 50% で、もちろん行動をしている市民の割合ということなので 4 ページの目標値より低くなると思うが、もっと上を目指していただきたい。それから、この戦略を各局すべてに浸透させ、各局それぞれの施策

の土台として、そこからどういう発展するかというところをしっかりと植え付けていただきたい。

#### 【事務局】

最初の「環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合」については、環境基本計画にもあり、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という方は90.8%、「そう思う」だけだと50%程度となっているため、「そう思う」という人を増やしていくイメージを持っている。各局の連携については、「みどりの基本計画」においても「生物多様性」や「質の高いみどり」という言葉を入れて連携して推進していこうと考えている。また、漁業や農業の計画も改定時期になるので、それらの計画にも生物多様性の観点を入れていただき、各局と連携して対応していきたい。

#### 【会長】

市民の思いを大事にしつつ、行政計画なので施策目標としてエビデンスのあるものを示していくという意味では、今のご指摘も踏まえて精査を重ねていただきたい。

#### 【委員】

3 ページにある基本施策1の環境総合学習の実施校割合の目標値がマルになっているのはどういうことか。この環境学習がどの程度の中身なのか分からないが、実施校は当然100%でなくてはならないと思う。その点を踏まえているのか、なぜここだけマルになっているのかお尋ねしたい。

#### 【事務局】

マルの部分は、所管する教育委員会と調整をしているところであり、もちろん100%が目指すところではあるが、学校の先生の配置等のため実施できていないところがあると聞いている。100%にできないかお願いしているところであり、目標値については引き続き検討していきたい。

#### 【委員】

全般に関わることだが、循環型社会構築部会では、排出者に関わる事項で、その先のところが環境保全・創造部会の環境教育と結びつきがあると思う。エネルギーについては、システムで解決する部分が大いと思っており、CO<sub>2</sub>の吸収の文脈のところ、排出者のその先のところ、今の環境保全・創造部会の環境教育の文脈が大いなので、3つの部門にまたがって環境教育で市民にどう浸透させていくか、自分ごと化するか、というところをばらばらではなくちゃんと結び付ける必要があるが、位置づけも少しばらばらな感じがしている。物質循環したときに、土が団粒構造化することによって、土の中に炭素を固定化し、CO<sub>2</sub>を吸

収めていく分野からも、排出した生ごみをたい肥化して収集する部門と、森林や自然部門と、色々なところが統合されるので、全部を統合している環境教育ということがもう少し分かりやすくなると良いと思う。

**【事務局】**

環境教育については、環境施策全体に関わるため、環境基本計画の中でも分野横断的な施策と位置付けており、いただいたご意見を踏まえ、全体の調整や精査を行っていきたい。

**【事務局】**

資料 4-3（一般環境大気測定局（祖原局）の移設）について説明

（5）閉会

以上